

探究的な学びに焦点をあてた カリキュラム・マネジメント

教職教育部 主任指導主事 島田 和代
 専門主事 向井 真弓 藤澤 雅道 佐々木 俊秀
 依田 学 宮下 正史

【研究協議会の概要】

1 ねらい

新学習指導要領では、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの実践が求められています。現在、その重要性についての理解は進みつつありますが、取組が組織的なものとなっていない学校現場も多く見受けられます。そこで、このような現状を踏まえ、カリキュラム・マネジメントを学校全体の組織的な取組とするために、地域素材を活用した「探究的な学び」を手立てとして行うカリキュラム・マネジメントの手法を体験していただきます。

2 カリキュラム・マネジメントとは

(1) 新学習指導要領・総則（「カリキュラム・マネジメントの充実」）

以下の i から iii の取組などを通して、

教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと

児童・生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、

- i 教育の目的・目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てること
- ii 教育課程の実施状況を評価し、改善を図ること
- iii 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保し、改善を図ること

(2) カリキュラム・マネジメントの3つの側面

i 教科横断的な視点…カリキュラムのデザイン ※

学校の教育目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列する。

ii 教育課程の実施状況の評価、改善

児童・生徒や学校、地域の実態に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。

iii 人的、物的体制の確保、改善

教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

※ カリキュラムをデザインするポイント

- ① 教育活動全体の関係をグランド・デザインとして描く。
- ② 学年の学習活動を俯瞰して単元配列表を描く。
- ③ 一連の学習活動のまとまりとしての単元を描く。

3 探究的な学び（「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」）を手立てとするカリキュラム・マネジメントの手法（2（1）（2）iと2（1）（2）iiiをつなぐ）

(1) 地域素材の発掘（教職員自身の探究的な学び）

(2) 地域素材から教科等の学習へ

学校教育目標と育成を目指す資質・能力をつなぐ [ワークシート1]

※の①

地域素材から一人の子供の学びの姿を可視化する [ワークシート2]

2（1）（2）のiii

※の②

学びの文脈を大切に単元計画

[ワークシート3]

※の②

PDCAサイクルを確立する

[ワークシート4]

2（1）（2）のii

研究協議会の演習

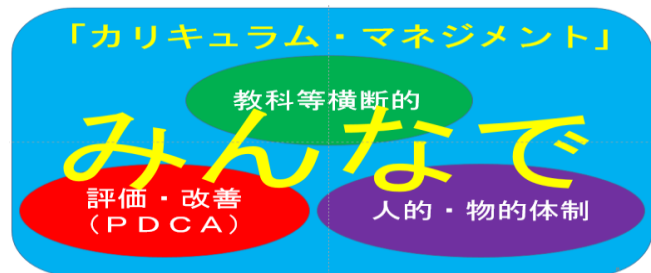
【研究協議会の当日の様子】

- 10:05～ カリキュラム・マネジメントとは
- 10:15～ 具体例からカリキュラム・マネジメントを考える
- 10:35～ 演習（カリマネを体験する）
- 11:40～ 振り返り
- 11:55～ まとめ

(1) カリキュラム・マネジメントとは



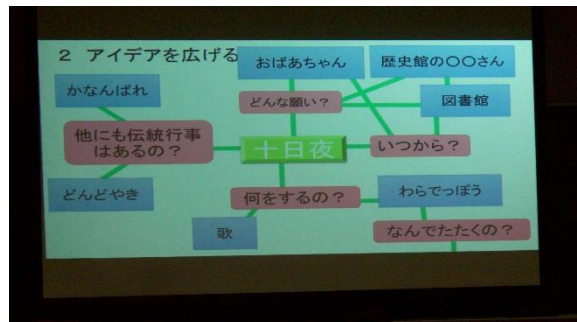
新学習指導要領総則に触れ、カリキュラム・マネジメントの3つの側面を提示した。



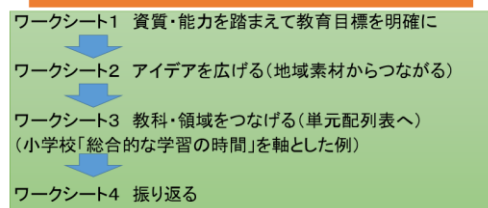
(2) 具体例からカリキュラム・マネジメントを考える



地域素材（十日夜^{とおかんや}という地域のお祭り）を生かしたカリキュラム・マネジメントの具体例を提示し、カリキュラム・マネジメントの手法の一部を紹介した。



素材を教育課程にどう生かしていくか？



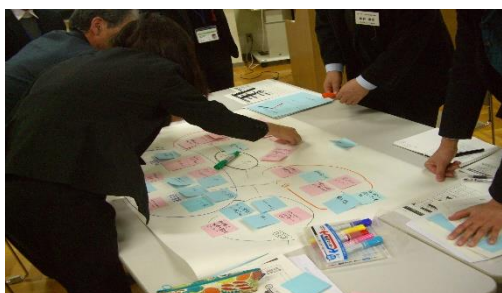
ワークシート1からワークシート4を提示しワークシート2とワークシート3を用いて演習を行う参考例とした。

(3) 演習（カリマネの一部の手法を体験する）
「味噌」を地域の素材としてグループごと演習を行った。

**探究的な学び
地域の素材**

- 1 グループで「マッピングシート」を作成する
- 2 マッピングシートをもとに「単元配列表」の一部を作成する

演習の参加者の様子（ワークシート2のマッピングシートを作成している演習風景）



参加者の感想（一部）

- めざす子どもの姿を様々な立場（地域の方も含めて）から願いを出し合いながら共有することの意義をあらためて実感することができた。まずは自分の立場で提供できる材を出し合う。まためざす子ども像を実現するために必要な他からの材を求めることの大切さを体験的にとらえられた。
- 学びの要として、総合的な学習の時間をどう作っていくべきか、学びました。
- カリキュラム・マネジメントということばは具体的なイメージがつかみにくいが、具体的に体験することで、実感できることがわかった。今回ミソという題も楽しく考えるきっかけになったと思います。モデルにするには身近なテーマが良いと感じました。よく考えられていたと思います。
- カリ・マネは「百聞は一見に如かず」です。理論よりもまずやってみることが大切だということを確認できました。ありがとうございました。
- 本校で探究的な学びを推進しているところなのでタイムリーな研修でした。校内研修にも生かせそうです。ありがとうございました。
- 現場の視点、取組について学びました。ありがとうございました。
- 実際のワークショップにより、ヒントをたくさん得ることができました。
- ワークショップの成果物を価値付ける時間が欲しいと思いました。

【研究協議会を終えて】

①参加者の変容

「カリ・マネを、『悩み』としてとらえていたが、やってみたら本当に楽しかった。これを生徒にも伝えたい。学校でもしっかり広げたい。」という参加者の声があった。頭で考えているより、実際にカリキュラム・マネジメントの手法の一つを体験したことにより、カリキュラム・マネジメントのイメージをつかんでいただけたと考える。

②学ぶことの楽しさ

『問いをもつことの楽しさ。協働して取り組むことの楽しさを感じることができました。1+1を3にできるカリ・マネの大切さを改めて感じました。』という意見も聞かれ、地域素材を生かした学びが、学びの楽しさにつながっていくということの入口を体験していただけたと考える。

③今後の課題

「校内でカリキュラム・マネジメントとはどういうものか共有することから始めたい。自分が主体となって校内で多くの先生とカリキュラム・マネジメントについて話し合い、実践を広げていきたい」といった意見が出された。各校でカリキュラム・マネジメントの営みが広がるように、総合教育センターとして今後の研修を充実させ、研修に参加していただいた受講者が各校に持ち帰り活用できるような研修内容を工夫していきたい。

教育目標:

知:

徳:

体:

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
知			
徳			
体			

教育目標:

①中心となる材を決める ②そこから生まれる「問い」と「材」をあげる ③児童・生徒の思考の順番で整理してみる

中心となる材

問い(知りたいこと)

材(人・もの・こと)

(教科・領域名)



カリキュラム・マネジメントのチェックリストの一例

	チェック項目	対応総則項目	チェック欄
1	資質・能力を踏まえて、各学校の教育目標の明確化が図られているか。	第1の3、第2の1	
2	教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成が図られているか。(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等)	第2の2	
3	学校段階等間の円滑な接続への配慮がなされているか。	第2の4	
4	児童生徒の発達を支援する視点があるか。 (発達段階の特長、生徒指導、キャリア教育など)	第4	
5	家庭や地域社会との連携・協働が図られているか。	第5の2	
6	カリキュラム・マネジメントの実現に向けて校務分掌の分担・連携がなされているか。	第5の1ア	
7	学校評価が、カリキュラム・マネジメントと関連付けて行われているか。	第5の1ア	
8	各分野における学校全体計画等と関連付けられているか。 (学校保健計画、学校安全計画、食に関する指導の全体計画)	第5の1イ、付録6	